

1,アイソレート・アイソトープ / かおすけいおす

ふと耳に届く 誰かの会話を 批評する目的地0.5時間前 知らない誰かと 肩を寄せ合う 深夜に追いつかれそうなバスが走る

両ポケットに詰め込んだ 無関心と興味心
使い捨てて空っぽの体は軽すぎて消えそうさ
Isolate

いろんな形の退屈を乗せて バスがゆく
どれだけ近くたって一人ぼっちだな
似たもの同士の寂しさを隠し僕らゆく
落ち着きのない心をなだめて
眠らない信号機 僕達を迷わせる
街の真ん中で 隣同士の孤独を知って
僕達は生きる
深夜に追いつかれたバス 目的地0時間前 夜の無い街の夜を 裂いて走る

Isolate

似たもの同士の寂しさを映すこの街を
乗り過ごせば違うものが見えるのかな
疲れを知らない街をくたびれた僕らがゆく
落ち着きのない心を守って
車輪のような日々を回して
明日もバスに揺れる

2,街と繋がる公園の時間 / T28

街一番の広い空
誰も気付かないそれを見上げているだけ

噴水を背に腰掛けた
しぶきの中の虹を見付けられない

我先へと急ぐ足は
おのずと世界を狭くしていく

ただ過ぎていく時間を雲のように感じる
とても早い風のようなだから
目をこする瞬間でさえ

街一番の広い空
誰も気付かないここは僕だけのもの

とても遠くに奪われてしまう
おのずと視界を狭くしていく

ただ過ぎていく時間を雲のように感じる
とても早い風のようなから
目をこする瞬間は

ただ過ぎていく時間を雲のように感じる
とても早い風のようなから
目をこする瞬間でさえ

置いてかれてしまうよ

3,血のない街 / 強賢猫

あなたをえらんだの　さいごにえらんだの
血のない街で
星の端、二億のかなしみでできた都市

くちづけアスファルト　まばたきH型鋼
つま先は未明
ラジオのトイピアノ
ざわついた昨日は錨をぬき波をけちらす
身体に傷をうつしだす
夜と名づけた空気の檻よ　いかせてくれよ
マヌカの蜜塗りたいれば　カブトムシむらがるようなことばはチート
だまりな

雨傘ひろげた都会には
あのこの声はきこえない
いま、首都は僕たちの後悔を
ふちいっぱいたたえた真夏の氷
たちつくしてた僕らにはラピスラズリの矢をふらしいわう
心にじんだ鼓動　ばらばらの動かないコードのかけら胸に抱き
鏡ばりの渋谷に昼の月

ほんとはゲシュタルト　いえずに泣いていた
とどろいたひめい
ポケットにわずかのザラメ植え込みに撒く

針を刺し香炉を投げ出す
運命の木に火を放つ
肉喰らう旅客機の飛行　見たくないんだ
うらがえし　蝙蝠とびかう
夢の駅　ゆれる灯火
僕は踵かえした

朱を避けておろした臉

せつなに消える大都会
知らず知らず遠ざかるよ 匍匐のよう
頬にキスまでの 不実の恋
春を駆けてたおもかげは
夜露ぬれた瀬をはやみ
幾何学のロジカルもソーダ色
真闇の空 拳を袖にさし
証したのはmsec
きみが好き

バイバイ また会う日まで
東京・TFLOPS・アローン
いのちはおわらない
ちいさな ちいさな 掌 こわれる
東京・PFLOPS・アローン
出口はたどれない
キラキラ 希望は肌をかさねていたのさ

さいごにえらんだの 血のない街で
止まず生けることの 正しさに打たれた
不屈の罪

なみだのかわいた通りには
あのこは影さえ落とせない
違う、僕のほしいものは ここにある
かなしいときはおもいだせ 腸の脚
その輪郭や白さの記憶は
きえないリアルにきらめく
似た人ふりかえる南口

4,ビルのお陰で / ステル

沈む太陽を背にしてそびえるシルエット
巨大なビルのお陰で暮らす
ねえ、どうしてこんなに怯えてるんだい
じきに凍えてしまうからこっちへおいで

絶望の淵に立つようだ
光見ぬふりして怠けるクセに

きょとん立ち尽くす虹を見たように
足の使い方忘れたの
誰かが作った町の片隅で
何かが来るのを待っている

響く靴音が隠す次元の刹那
膨大な人ごみ目指すは君
少しの間でいいから手を握っていてくれ
ぬくもりの記憶がよすがに代わる

歩くよシャッポを深くかぶり
体裁にそぐわない千鳥足で

寝ても覚めていても時間は平等で
さらさら流れてゆく砂時計
誰かが作ったレールをゆくようで
誰もが時の先端を生きる

いまだだかつてない妄想
まばらなファンタジー
信じていられるならば
なんだってやるさ

歩くよシャッポを深くかぶり
体裁にそぐわない千鳥足で

寝ても覚めていても時間は平等で
さらさら流れてゆく砂時計
誰かが作ったレールをゆくようで
誰もが時の先端を生きる

5, さよならトレイン / 6410

流れる街よ さようなら
見つめる窓は煤の色
冷たい人はどこにいるの？

2日目の髪 のしかかり
生温い風は恋の色
時間をかけて育てたいの

舌打ち 駆け込み出発

またあした またあした って
今日もお疲れさまでした
ただ汗が 止まらない って
どうということなの これは夢？

大丈夫 大丈夫 って

明日は良い日なんだろうな
少しだけ 眠ろうか
終点まではあと二駅だ

「進行方向はミライです」

淀んだ空よ さようなら
みんなで合わず揺れ心地
涙目はベストセラーで隠すの

きらめく世界 のしかかり
手のひらの上は充電不足
さえずりは虚しくなるだけなの

普通の人に馴染んできたけど
どこにでもいるわけじゃないの！
見つけ出してくれる人は
いないと誰から聞いたんだっけ？

酸欠 息せよわたし
愛せよ明日を！

またあした 頭痛い って
今日もお疲れさまでした
目から汗が 止まらない って
どういうことなの これは誰？

大丈夫 頑張れる って
昨日も一昨日も ずっと
少しだけ 眠ろうか
終点まではあと

「本日もご利用ありがとうございました」

6,まわる / mia子

ライト照らし出した跡が焦げ付くように
ぼつりと放り出され迷路の中彷徨う

何もかも持ってたお姫様は眠った
目覚めの時なんてドラマのようにやってこない

もういいやってなれたらどこに居たかな
どうしたって捨てれず泣いていたから

何重にも閉じ込め遊ばせていた
雨粒滲む

ランドセル降ろしまばたきした瞬間
強い風にさらわれて ここにいたの
走馬灯はいつだって見えてる知ってるでしょう
取り返せないことだらけ

光と影 栄光には衰退
止まりたくなくて止められなくなる
すがりつけば出口は闇に溶ける
壊して終わりにしなくちゃ

置いてかないで 聞こえない声を絞る
枯れたコーヒーカップ からから鳴る
生まれ変わるよ 全て薙ぎ払うように
メリーゴーランド まわるまわる

崩れて行く何もかも抱きかかえて
錆び付いたお城にさよなら言う
静かな過去の居場所を目に焼きつけて
最後の夜 まわるまわる

7,平成三文ミュージック / みりあんぬ

宙に溶いた、三文ライブ・リバーブ
エッジを効かせてぼやけていく
妄言めいた、三文ライブ・エンディング
マック・ザ・ナイフ きっと間違い
、生きていく

引かない熱に浮かれる高架下
都会の風、吹き抜けて気づく
こんな、全部息苦しい街
なぜ私生きていられるの？

わざと逃す戻らない環状線の終点
きっと誰もいない場所
4の秘密、彼の諦念、私の生

宙に溶いた、三文ライブ・リバーブ
エッジを効かせてぼやけていく
妄言めいた、三文ライブ・エンディング

マック・ザ・ナイフ 切り裂いたら
、空をみる

暗い深い絶望と生きている
鼓動毎まつわる痛みは
今日の真実、この平成、唯一の解

宙に溶いた、三文ライブ・リバーブ
エッジを効かせてぼやけていく
妄言めいた、三文ライブ・エンディング
マック・ザ・ナイフ 間違っていない
、滲んでいく

8,KIRAMEKI STORE 24 / むちゃ

眠らない街の真ん中で
眠れない人々が集まって
それぞれの理由を抱えて
それぞれが何かを求めてくる

365/24 いつまでも光り続ける
365/24 夜明けまでを見守っている

ああ ここに来れば
何もかにもが君のもの
ああ どこを探しても
見つからないけれど

ビール おにぎり スポーツ新聞
牛乳プリン フライドチキン
ジャンプ シャンプー 歯ブラシ 下着
キャスター 電池 アイスクリーム

今 この夜に 見た
人々の生きる煌き 見た

365/24 いつまでも光り続ける
365/24 夜明けまでを見守っている
365/24 いつまでも光り続ける
365/24 いつだって見守っている

9,水族館 / lelangir

[A1]

一つの水滴の中、
合わされる光のような夢想。
照られた自分は鏡が、
自分が見えずに、見たい。

[サビ]

湿る魚
深海の見つめる目に。
この水には、やっと目が覚めた。
自分は一、全てかも。
泡に浮かぶ現実
私の海、包まる涙。

[A2]

一つの水滴の外、
遊ぶ光のようないたずら。
分からない違いは目の前に、
知る形、この光。

[bridge]

水で湿られる？
何かが包まりそうだ。
光か水か、深海。
自分、全てかも。
終わる夢想の後、
残ったのは見つめる目だ。

[サビ]

湿る魚
深海の見つめる目に。
この水には、やっと目が覚めた。
自分は一、全てかも。
泡に浮かぶ現実
私の海、包まる涙。

[サビ2]

浮かぶ現実、
カミ様が忘れてた。
何の為に透明な世界を作ったのか？
自分は一、全てかも。

泡に浮かぶ現実
私の海、包まる涙。

10,21階の平和 / みりあんぬ

いつもと同じ夢を見ている
最低な毎日と相対する世界
全煩悩で育つ青い花
これが私の夢見るハウツー

世紀末さ、グルーミー
愛しヤマノテのロスト・バージンドリーム

朝に咲くホープ、いつも昼過ぎには枯れちゃう

いつもと同じ夢に飽きて
最低な今日と対峙してみたなら
全感情が御都合主義者オチ
夢現に沈んだら歩き出す

何を怖がってたの
朝が来ない夜こそハッピー

幸せに沈んでいく
オピウムを湛えてバスタブ

誰にも会いたくないの
会ったって意味なんかないの
言葉を聞きたくないの
絶対に怪我したくないの

生来の孤独を愛せ！